

### 第3回川西市中心市街地活性化協議会 議事録要旨

- ◇日時 平成19年10月31日 15:00～17:00
- ◇場所 アステ川西5F 「コンパス」
- ◇議題 議題1: 中心市街地の活性化に関する基本計画・目標について  
議題2: 基本計画(案)・事業構成について

#### ▽会長挨拶

・船岡正夫会長より(川西市商工会)

#### ▽新規に加入した団体の紹介

・阪急バス株式会社

#### <議案1: 中心市街地の活性化に関する基本計画・目標について>

- <委員> ・現況の商業データについて、平成14年の値までしか出ていないが、最新のデータを使用できないか。
- <事務局> ・公的に公表されているデータとして新しいものはこれである。平成17年の値は、近々公表されると思われるが、現時点ではこのデータである。
- <委員> ・同じく商業のデータが川西市全体の値となっており、中心市街地データを抜き出すことはできないのか。
- <事務局> ・市の統計で公表されているデータを使っている。詳細にデータを把握すると、時間と労力がかかると考えられるため、現時点ではこのデータを用いている。
- <委員> ・活性化スタンスの表現について、個別の事業で示されている言葉を基本的なスタンスに入れたらどうか。例えば、「水と緑」、「交通の利便性」、「既存資源の活用」というような表現を活かしながら、賑わいや潤いなどがある、生活に豊かさを感じられるまちづくりを行っていくものとしてはどうか。  
・個別の事業の表現について、抽象的な表現と具体的な表現が混在しているため、整理してほしい。
- <事務局> ・基本的な表現で挙げられている表現、そして右側で表現されているもので、表現が具体的なものと抽象的なものが混在しているため、レベルや次元を統一させながら精査してほしい。
- <議長> ・基本的なスタンスや活性化の方針では、もう少し文言を増やししながら、精査してもらい、可能であれば変更もお願いしたい。
- <委員> ・駅の乗降客数は分かったが、駅周辺での滞留人口を把握されているのか。これは、今後の活性化をみる上では、非常に参考になるのではないか。
- <事務局> ・現時点では、すぐに入手できる既存のデータを用いているため、基本計画を策定する折には、改めて整理したい。
- <委員> ・中心市街地活性化を進める上で、事業の優先順位のメインのテーマを設けることが必要ではないか。その次口に順次どのような整備を行うか示してほしい。  
・商工会がお願いしているのは、「滞留時間の長いまちづくり」ということを伝えてきているが、これを一つも盛り込んでいない。通過する客は多いわけであるため、実際にこの川西で降りられる客は3万人強。それでは、この町の発展はないのではないか。  
・中心市街地では、川西市に何が不足しているのか。これを明確にしたうえで、活性化に臨まなくてははいけない。

よその市に負けないようなまちにするには滞留時間の長いまちづくり。

・乗降客をどのように盛り込むのか。これについても対応が必要である。検討してほしい。

<議長> ・優先順位というのは現段階ではまだ設けていない。参加されている皆様は多様な所属であるため、優先順位は設けずフラットに意見を出してもらってる状況である。むしろ、逆にアクションプログラムの活性化基本計画を設けていくのであれば、むしろ皆様方でその議論をして頂ければ、事務局でその方針で進めてもらえる。現実には優先順位は必要となってくるため、忌憚のない意見をいただきたい。これは、事務局主導でつくる基本計画ではなく、皆様方かたのご意見をいただきながら、進めていくという趣旨であるため、是非出して頂きたい。  
・具体的に滞留時間のことが入ってきているかと思えば、その点は弱い。基本的な方針に滞留時間の問題、乗降客の問題等を整理して頂き、反映させてほしい。

<委員> ・活性化のスタンスや基本的の方針において、滞留を示すものとして、“潤い”や“循環”という言葉を入れているが、もっと明確に伝わるように、表現を修正してほしい。  
・また、再開発事業については、既存の事業を対象に活性化を目指すような表現になっているが、これについても、これから施行される再開発事業についても対象となるような表現に変えてほしい。

<委員> ・文言はきちんと入れてほしい。まちづくり3法の中では行政の立場は大変優先すると個人的にはおもっている。そこで、中心市街地活性化に対し、行政としては何を第一の目標にかかげて議会への説明内容や政策協議会の動きについて教えてほしい。その方が皆さんも話がしやすいのではないかと。中央北地区をメインにして色づけをしにいくのかを示した方が、検討もしやすいのではないかと。

<委員> ・多分それぞれ、自分のところが中心で考えるのではないかと。そのため、例えば中央北地区を最初にということではコンセンサスが得られるのかということについては何ともいえない。各々みんな各種事業を持っているため、その辺を調整することが、この協議会の主な活動とも思っている。

<委員> ・北地区を第一優先で考えるということではなく、駅前と中央北地区とどう連携させ、一体的に中心市街地として活性化させるのかとすることが大事ではないかと。北が優先ということではなく、駅と連携して中心市街地活性化に対し、議会への説明内容や政策協議会の動きについて教えてほしい。

<委員> ・F地区の市街地再開発事業については、どのような方法で、どのようなまとめ方で進めていくのか。そういうことを知りたい。

<委員> ・どんなことがあるのか、先が見えないため、サブ的な資料でも構わないため、このようなことについてはこのような事業があるということを示して、説明してもらってはどうか。

<事務局> ・様々な優先順位やご意見はでていますが、今回の協議会は、全国的に川西能勢口をアピールするテーマを決める方向の中で、市街地再開発事業や土地区画整理事業等については各所管の窓口で調整して頂きたい。ここでは、全国にアピールするにあたり、各事業者がどのような取り組みをしたら、こういう内容が具体化していくのかということ、具体的にどのような事業で、どのような補助金をもらい、どのように進めていったら整備されるのかということを示すものである。基本計画の中では、5年以内に完成するもの、又は着手しているもの等を具体的に基本計画の中に加えるものである。その場合、具体的な主体は誰なのか、いつから開始し、予算はどのくらいで、支援はどの事業の支援で行うのか、どの場所のどのポイントでこの事業を行うのか、ということの基本計画の中に掲載することとなっている。それを持って協議会から市に対して基本計画にまとめて、内閣総理大臣に認定申請していくというものである。そのような中で、現時点では、川西能勢口をどのような方向に向かっていくのか、このままじっとして良いのか、18万人の乗降客数をどのような方法で、地上部に滞留させるのかということはこの場でいただけたら、本当にありがたいなと思っている。

<議長> ・優先順位については、基本的にはフラットに並列的に挙げて、それらをまとめることが基本的な流れである。しかし、協議会からそれではスピードも遅くダメだということであれば、並列的に並んでいる事業を縦に並べ替えて優先順位を付加するということが十分に可能であると考えられる。それは、今後の議論の中で、協議してほしい。

・もう一の方法としては、この協議会であれこれ議論するということをしてなかなか前に進まないということであれば、たたき台を出してくれということであるが、逆にこの協議会ではそのような方法をとらないものである。新法における協議会組織などの基本方針というのは、いわば、上から御上のお達しのようにプランを作り上げていくのではなくて、草の根的に民間レベルで様々な事業を挙げて頂き、コーディネーター的に行政やその場にいる人間がまとめていくというようなむしろ逆のまとめ方である。従来のやり方の方がやりやすいという点があるが、今の時代、特にこの中心市街地活性化基本計画の適用を受けていこうとするのは弱く、本当にこの協議会に参加している方が、それぞれの事業を提案し、この事業を行ってくれ、というものをまとめていくということになる。それだけにどんな方針に沿って進めていくのかといくことが大事になってくる。その点は、ご理解頂きたい。もし、事務局である程度プランを立てながら進めていくという進め方を検討されてるのであれば、それはその進め方でも良いが...

<委員> ・まずは中央北地区の現状を把握してもらう必要がある。現在、市の所有地における改良工事が行われている。これは年度内いっぱい行われる。私有地の土壌改良についても、年度内に着工予定で現在進められている。一方、行政を中心に、中央北地区の基本構想が検討されている。中央北地区では、独自でこのような活動を行い、昨日も地権者や行政を巻き込み、まちづくり協議会を行った。中央北地区については、独自にこの24haのまちづくりを取り込んでいくかということを検討している所である。そのため、中央北地区としては、駅前と中央北地区でどのようなバランスをとって進めていくのかということについては、意見を伺いたいが、中央北地区については、あくまで独自で基本構想を進めているため、事務局で提案されたとしても、“いや、結構です。”ということになることも考えられる。

<委員> ・そのようなことを、中央北地区の方からの発言を聞けば、川西能勢口駅を中心に活性化を検討することが優先順位として出てくるのである。私がいいたいことは、30年間こうして都市計画に係わってきて、まだできていないところもある、そういうことも含めて、こういうおおまかな仕組みでは、絶対に物事が成功しない。そのため、先ほどからお話にあるように、この計画は5年で行うという目算を立てて行うような方向で進めてもらわなくては、なかなかできていかないのではないかと。

<委員> ・中央北地区について、5年後は仮換地が終わるかどうかという所である。共同して川西市の市内で滞留を目指すという場合、基本計画の策定も今年度末にできあがる予定、果たして中心市街地とタイミングが合うのかということは微妙である。

<委員> ・もっと個別に優先順位を決めながら進めていかなくてはいけないのではないかと。

<委員> ・今年度中に基礎構想がだされるということであれば、それを持って中心市街地活性化基本計画を策定しても良いのではないかと。我々の関心事は中央北地区と能勢口駅周辺をどのように結びつけるかということである。中のことは皆さんで考えていただけたらよいのではないかと。

<事務局> ・今年度の予定も含めて説明したい。市の方で中心市街地活性化基本計画の今年度を作業として進めている。また、行政では中心市街地とは、能勢口駅周辺の約38haと今後大きく土地利用の転換が予想される中央北地区の約24haを足した約80haとして調整をおこなっている。しかし、中央北地区の施設の決定までを待っていることは市としてもできない。ということも国にも話している。しかし、施設はどのような計画にするのかということについては、年度末まで待つてほしいということをつたえている。

<委員> ・ベルフローラも駐輪対策を事業書として提出しているため、宜しく願いたい。

## <議題2:基本計画(案):事業構成について>

<委員> ・川西市はこのような取り組みをおこなうのが遅すぎた。今の事例をみても、このようなことを行える場所がないのではないかと。かつては商店街があったが、道路拡幅に伴い、それらがなくなってしまった。そのため、このような事例をみせてもらっても、できる場所がないと思ってしまう。

<委員> ・これからのまちづくりは権利者が協力してくれるのか否かの違いである。

- <事務局>・それでは、何もせずにこのまま黙って何もしないのかという話がある。いま、能勢口をほったらかしにしておこうということでも、乗降客数はどんどん増えている。逆に売人や年間販売額も減少していく、このままでは郊外店に買い物に行ってしまう、イベントを行っても下火になってしまうというようななか、このままおいても良いのかということが契機である。旧法の中心市街地活性化基本計画やTMO構想ではTMO会社を立ち上げてまちづくりを進めようとしていた。
- ・地域の皆さん、商業の皆さん、そしてその中心が商工会さんという押さえであるとみている。
- <委員>
- ・川西市の市街地再開発事業は全国的にみるとこれは成功の事例である。その中で、何が足りないために、このような状況に陥っているか。それを検討して行かなくては前に進まないのではないか。
  - ・どういった施設がまとめられているのか。極端な話、川西市には、夜の賑わいのあるまちという視点も必要ではないか。また、映画館があったら映画館があったら映画をみに行くのではないか。風呂があったら、風呂に来るのではないか。実際に何が足りないのか。という検討が求められている。また、駅前にホテルをつくらうかということもひとつあげられるのではないか。
- <委員>・地べたの動線が出来ていない。皆さんがやろうということで集まっている会である。そのため、何から手をつけていくのかということが大事である。
- <委員>・先が見えていないため、議論が進んでいないのが実情ではないか。人がやるのではなく、みんなでやろうということである。
- <委員> 具体的な事業を挙げて、どの場所で、誰が事業を行うかを協議しなくてはいけない。もちろんそれを市がするということはとんでもない話なのではないか。
- <委員>・最初は、市で協議された基本計画をこの協議会で議論しようという話であったのではないか。この議論は市でも議論を行っているのか。市の計画がありますか。全然みえてこないではないか。
- <議長>・この資料については、殆ど参考にはならない。これらは地方都市のかなり疲弊してきているところばかりであるため、あくまでもイメージである。それでは何をみて頂きたいかというと、行政も民間も様々な案を出し合ってパッケージとして全部出すということである。そのイメージ図を見て頂きたいということである。もちろん、市の内部でも、協議している。
- ・もう一つ、この資料の見方としては、実際何を具体的な事業として盛り込むのかということになるが、それが大事な所であるが、それを示す基本方針や目標が綺麗にかけていないと、これも又内閣府からの認定を受けることは難しくなる。事業が沢山入っていても、目指すべきまちの方向であるとか、基本理念等が出されていなければ、これも原点となるため、そこも含めて議論して頂きたい。
- <委員>・よその事例をみても、なかにアピールできるものが必要ではないか。川西市は歴史的な遺産が多い、そのような視点から、博物館や美術館的なものを併設するなど、てこ入れが必要ではないか。歴史と文化のまちとしてはどうか。
- <委員>・TMOでは、振興会社がP・ステージを斡旋しているため、利用してもらわなくてはならない。
- ・KSKIは各団体とのつながりをつくりだした。尻切れトンボにならないように
  - ・今の中心市街地で何が不足しているのか。滞留時間が長い、地べたでの連続性ではないか。
  - ・パーティとモザイクも連携させたら、どちらも流行るのではないか。全部背中あわせではないか。
  - ・中央北地区との動線を設けたら、活性化がすすんでいくのではないか。
  - ・また、能勢口駅は交通の結節点であるため、飲屋街を設けたら、流行らないわけではないのではないか。
  - ・4回目には詳細な事業が出されるのではないかと期待している。もう少し、具体的な案が出てくることを期待している。
- <委員>・小戸、小花などにはだんじりがある。駒をつけたら、街なかを練り歩けるのではないか。これを機に祭りの復活もあるのではないか。
- <委員>・事務所で20歳代のメンバーを集めてミニ会議を開いたが、若者が集まれる場所がほしいとのことであった。例えば、クラブやディスコ、オープン・カフェである。また、緑の中でランチを食べられる施設や、GAP等のいける店を呼んでこられないものなのか。

- <委員> ・高齢者がとどまれる場所もほしい。  
・また、高齢者が意欲的に物作りができる場所なども起爆剤として活性化する。  
・参加できる施設。
- <委員> ・市外からの客層の把握も必要である。商圈はどうなのか。  
・中心市街地活性化に対し、議会への説明内容や政策協議会の動きについて教えてほしい。
- <委員> ・まだまだ埋もれている地域資源の活用。中心市街地活性化に対し、議会への説明内容や政策協議会の動きについて教えてほしい。  
・IT関連の可能性もあるのではないか。ナビゲーションシステム等がある。

## □閉会挨拶